

科学技術週間プレ行事に出展

今年の第66回科学技術週間（4月14～20日）のプレイベントとして、4月12日（土）に茨城県つくば市内で開かれる研究体験イベント「SCIENCE & TECHNOLOGY PRE EVENT 2025」に森林総合研究所もブース出展し、研究紹介や体験コーナーを予定しています。

子どもも楽しめる同イベントは午前10時から午後3時まで、つくばセンター広場などで開かれ、入場無料（一部体験は参加費要）です。昨年は市内13の研究機関や大学が参加し、約1500人が来場しました。つくばまちなかデザイン主催、つくば市など共催。ご来場お待ちしております。



昨年4月14日、茨城県つくば市内で開かれた科学技術週間プレイベントに出展した森林総研のブース

一般公開「春の森林講座」

今年の第66回科学技術週間（4月14～20日）の一環として、森林総合研究所は4月18日（金）、地域の方々などに研究所を知っていただく一般

公開イベント「春の森林講座」を開催します。おなじみの午前部（9時半から）と午後部（1時半から）の2部制で、研究員による講演と樹木園見学ツアーを予定します。参加には公式サイト「申込みフォーム」からの事前予約が必要で、午前・午後それぞれ60名の定員になり次第締め切ります。参加無料。詳しくは公式サイト案内をご覧ください。



昨年4月19日開かれた一般公開「春の森林講座」の樹木園見学ツアー

森林総合研究所プレスリリース

ネイチャーボジティブに貢献する人工林管理―定期的な伐採・植林と広葉樹の保持が鳥類保全の鍵―

森林総合研究所と北海道大学の研究グループは、定期的な人工林の伐採・植林が開けた環境を好む鳥類（開放地性種）の回復に重要な役割を果たしうること、少量の広葉樹を人工林内に保持することが広葉樹天然林を好む鳥類（天然林性種）の保全に効果的であることを、北海道全域での繁殖期（春）と冬期の調査により明

らかにしました。

農林業の発展に伴う土地利用の変化は草地や湿地、老齢林を減少させてきました。しかし、生物多様性の減少傾向を増加へと反転させる国際目標「ネイチャーボジティブ」を達成するためには、管理された土地における保全活動も重要であると考えられています。

本研究では、さまざまな地域や季節の鳥類の保全につながる人工林管理策を探るため、北海道各地で針葉樹人工林と天然林に生息する鳥類を調査しました。その結果、10年生未満の幼齢人工林には繁殖期に開放地性鳥類が多く生息し、人工林内に少しでも広葉樹が混交すると多くの天然林性鳥類の個体数が大きく増加す



人工林伐採時に混交した広葉樹の一部を残す「保持林業」の実証実験地（北海道有林）

る、という全道で共通した傾向が明らかになりました。

本研究の結果は、人工林内での保全活動が、これまでに大きく減少してきた開放地性種や天然林性種の回復に重要な役割を果たしうることを示しています。

本研究成果は、2024年12月12日にEcological Applications誌オンライン公開されました。

次号予告

6月発行予定の次号69号では、53号「森の昆虫：採集と観察」（2021年6月発行）の続編「森の昆虫II 飼育と観察」（仮）をお届けします。昆虫を飼育して観察する楽しさをはじめ、農林業害虫を防除する技術の研究開発を特集する予定です。巻頭の鼎談では、NHK番組「ダーウィンが来た！」「ワイルドライフ」などで生き物ドキュメンタリーを手掛けているディレクター山本伊智郎さんをお招きし、自然への対し方や観察の仕方などについて関西支所の向井裕美主任研究員、東北支所の高梨琢磨研究グループ長と語り合っていただましました。お楽しみに！

◀持続可能な開発目標（SDGs）

森林総合研究所は、森林・林業・木材産業等の幅広い研究を通して、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の達成に積極的に貢献しています。該当する目標と記事のページ数は、左記の通りです。



P.3, 8, 16



P.14, 18



P.3, 8, 14, 16



P.3, 8, 14, 18, 20



P.3, 8, 14, 18, 20



プレスリリース等の最新情報はこちらから→

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/index-r.html>

お問い合わせ

森林総合研究所
企画部 広報普及科 広報係
TEL 029-829-8372
Email kouho@ffpri.affrc.go.jp

